

# 橋梁研新聞

令和七年7月 5日発行



同窓会号

## 最近の研究室

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 教授:    | 山口, 鬼頭                 |
| 特任教授:  | 古田                     |
| 客員教授:  | 三ツ木                    |
| 特任研究員: | 大野                     |
| 秘書:    | 北見                     |
| D4:    | 吉岡, 田中                 |
| D3:    | 徳増, 秦, 頼, 李, 北市, 姚     |
| D2:    | 戸田, 吉山                 |
| M2:    | 木川, 土生川, 坂東            |
| M1:    | 井上, 瀬川, 楠崎, 平賀, 守山     |
| B4:    | 芦矢, 江田, 工藤, 武田, 西垣, 米澤 |



新歓の様子

令和5年度修了生、エム・エムブリッジ(株)、令和6年4月に吉山様(平成25年修了生、(株)エニインフラシステム)が、社会人ドクターに入学されました。令和7年4月に大野様(大阪市)が特任研究員に就任されました。また、4回生の6名が配属され、総勢30名の大所帯となりました。4回生は4名が女性です。学年、性別を問わず、メンバー同士で互いに協力し合い、先輩方の伝統を引き継ぎ一致団結して研究活動を進めています。

5月には、4回生の研究テーマが決定し、ゼミナールや実験、解析等で大忙しです。昨年度から岩手大学・徳島大学、長岡科学技術大学と合同で解析ゼミを実施し、研究室を超えた研究交流を行っています。

(記:瀬川)

## ぶら土木で現場見学へ

土木構造物見学サークル「ぶら土木」では、令和6年9月にエム・エムブリッジ(株)様の案内で喜連瓜破橋梁大規模更新工事の夜間架設現場を見学しました。新たな橋桁を一夜のうちに正確に架設する一連の様子を見学し、迫力ある場面を間近で見学することができ、貴重な経験となりました。(記:井上)



架設の様子

## 新たなメンバーのご紹介

大野 良昭(特任研究員)【自己紹介】3月末に大阪市役所を定年退職し、4月から研究室にお世話になることになりました。これまでに経験した課題の解消に向け取り組んでまいります。



戸田 健介(2回生)【自己紹介】2018年修了、社会人ドクター2年目、エム・エムブリッジ(株)の戸田です。通常業務の傍らで、学生の頃を思い出しながら、研究を進めています。



吉山 純平(2回生)【自己紹介】橋梁メーカー12年目、社会人ドクター2年目の吉山です。担当業務で山口先生にご指導いただいた縁もあり、そのまま学生として在籍させていただくことになりました。



林先生が長岡科学技術大学の准教授に就任されました。令和2年4月より助教として着任され、研究室を支えてくださった林先生が令和7年4月より長岡科学技術大学環境社会基盤システム准教授に就任されました。(記:井上)

令和5年度、6年度の学生の進路(株)建設技術研究所、(株)駒井ハルテック、宮地エンジニアリング(株)、西日本高速道路(株)、エム・エムブリッジ(株)、エム・エムブリッジ(株) 令和6年度 京都大学後期博士課程、エニエンジニアリング(株)、建設技術研究所、阪神高速道路(株) 北海道大学助教、東京大学大学院工学系研究科総合研究機構



林 徹 准教授

## 大阪公立大学に広がる変化

大阪公立大学の誕生から、早くも4年目を迎えました。森ノ宮キャンパスの新設や杉本キャンパスでの新理学部棟の完成など、大きな変化が続いています。工学部では、現在は都市学科・建築学科・バイオ化学科を除く学科が中百舌鳥キャンパスへ移転しました。その影響で、杉本キャンパスの工学部棟は以前より人の流れが少なく、なっています。その結果、橋梁研は、新たに会議室と試験体置き場が利用できるようになりました。(記:井上)



森ノ宮キャンパス



新理学部棟



会議室



試験体置き場

## 学外発表も盛ん

● IABSE in Manchester 令和6年4月9日〜11日にかけて、英国マンチェスターメトロポリタン大学で行われ、山口先生、小西さん(令和5年度修了生)、社会人ドクターの北市さん(博3)、石黒さん、安田さん(当時修2)、土生川(修2)が参加しました。初めての海外発表で苦戦する部分もありましたが、これまでの研究成果を無事発表することができました。さらに、現地の大学やコンサルの訪問、橋梁視察も行いました。(記:土生川)



グラスゴー大学にて



Tower Bridge

## 構造工学シンポジウム

● 構造工学シンポジウム 令和6年4月13日、14日、令和7年4月12日、13日に東京科学大学 大岡山キャンパスで、構造工学シンポジウムが開催されました。研究室からは、第70回には社会人ドクター3名、当時修2の1名が、第71回には社会人ドクター1名、修1の1名、令和6年度修了生の2名が発表しました。第70回にて、木山さん(当時修2)が優秀講演賞を受賞されています。(記:土生川)



構造工学シンポジウム



関西土木交流会

## 関西土木交流会

令和6年11月8日にインテック大阪で開催され、修2の学生3名が発表し、木川がインプレックスポスター賞を受賞しました。(記:土生川)

# 橋梁研BBOも恒例に

令和7年4月29日に毎年恒例の橋梁研BBOが開催されました。当日は、現役の学生に加え、BBOの皆様が長岡技術科学大学の学生の方にもご参加いただき、総勢29名が集まりました。また、先輩方から美味しいお肉の差し入れもいただき、その後の場で、二次会の場で、学年や立場を超えて親睦を深めることができました。

令和6年11月1日から3日にかけて瀬戸内にゼミ旅行に行きました。1日目は、川田工業(株)様の四国工場を見学し、溶接体験もさせて頂きました。夜は、湯ノ浦温泉を堪能し、宴会も行いました。

2日目は、しまなみ海道でサイクリングをしました。午前中はあいにくの雨でしたが、午後は晴れ間が広がり、橋梁や瀬戸内の景色を楽しみました。30キロメートルを超える道のりで時間はかかりましたが、全員無事に完走することができました。

3日目は、内海大橋の視察をしたのち、瀬戸の浦で街並みを堪能しました。また、おかやまフォレストパークでBBOや遊具を楽しみ、バスで大阪まで帰路につきました。

最新の研究プロジェクト「鋼トラス橋の補強設計合理化」へ

令和6年10月末から約1ヶ月半の間、施工技術総合研究所にて、当て板補強を施したトラス部材の圧縮・引張試験が実施されました。実験は石黒様(当時修士2年)を中心に行われ、その他の学生は1週間ずつ交代で参加しました。

事前準備は、Eラインフラシシステム様の工場にて炎天下の中で行いました。ひずみゲージの貼付ミスが多く、ひずみゲージの貼付方法・手順を研究室で再確認するいい機会になりました。

圧縮試験では母材・当て板の座屈変形を見ることができました。引張試験では終局まで見ることができませんでしたが、当て板・バイパス材の挙動を学びました。

申請・佐倉様・浅野様・山下様・陳様に学位授与

令和5年9月22日に申請が、令和6年3月22日に佐倉様が、9月20日に浅野様・山下様が、令和6年3月24日に陳様が学位を取得されました。申請は「ボルト類締結材を用いた鋼橋部材の当て板補修・補強工法に関する研究」、佐倉様は、「曲げとせん断を受ける高力ボルト摩擦接合連結部のすべり・支圧強度に関する研究」、浅野様は、「プレキャスト床版合成桁の鋼桁-床版間の合成作用に関する研究」、山下様は、「摩擦・引張併用接合を活用した鋳鉄床版モジュール間の接合構造に関する研究」、陳様は「摩擦接合と支圧接合を併用したハイブリッド継手の限界強度に関する研究」について学位論文を発表しました。研究室一同、皆様の益々の活躍をお祈り申し上げます。(記:坂東)

校門の前にて  
中庭にて  
授与式会場にて  
前庭にて

# ソフトボール大会

令和6年12月8日に万博記念公園スポーツ広場で開催された関西鋼構造ソフトボール大会に参加しました。阪神高速道路をはじめとする5企業と京都大学などの8校が参加しました。結果は1勝1敗で、研究の合間の良い息抜きになりました。

令和6年10月18日に第16回橋梁模型コンテストに、学4の5名が2チームで参加しました。チームSの曲線は、橋梁名「扇子橋」、コンセプト「アーチ橋涼」とし、扇形状の曲線美を追求したアーチ橋としました。また、チームH.I.M.は、橋梁名「自碇式極限(曲弦)トラス橋」、コンセプト「真即美」とし、技術・経済面から有利な構造とし、優良賞を受賞しました。両チームとも協力し合って完成させることができました。

令和6年9月11日にかけて、京都大学にて開催された「Japan Steel Bridge Competition」に、橋梁研から修士1・学4の計5名と、構造研・河川研の修士1計2名が出場しました。本年度は「緊急架設橋」をコンセプトに、主に2種類の部材を組み合わせたモジュラーブリッジを製作しました。シンプルな構成で急速施工が可能で、現場条件に応じた柔軟な組み合わせができる点が特徴でした。入賞には届きませんでした。入賞には届きませんでした。入賞には届きませんでした。

令和6年9月22日から13日にかけて、京都大学にて開催された「Japan Steel Bridge Competition」に、橋梁研から修士1・学4の計5名と、構造研・河川研の修士1計2名が出場しました。本年度は「緊急架設橋」をコンセプトに、主に2種類の部材を組み合わせたモジュラーブリッジを製作しました。シンプルな構成で急速施工が可能で、現場条件に応じた柔軟な組み合わせができる点が特徴でした。入賞には届きませんでした。

チーム S-N曲線  
チーム H.I.M

懇親会が開催され、各校が余興を行い、盛り上がりました。本学では修1の5名が、ダンスや漫才をした映像を上映しました。

令和7年の5月に頼(博3)を中心に、ワンサイドボルトで当て板補修を行った、小型クリップ鋼床版の載荷試験を行いました。載荷時にトラブルもありましたが、各方面の協力を得て、無事終了しました。大型実験室のアクチュエータを用いた実験を行い、その使用方法を勉強するいい機会になりました。

令和7年の5月に頼(博3)を中心に、ワンサイドボルトで当て板補修を行った、小型クリップ鋼床版の載荷試験を行いました。載荷時にトラブルもありましたが、各方面の協力を得て、無事終了しました。大型実験室のアクチュエータを用いた実験を行い、その使用方法を勉強するいい機会になりました。

令和6年9月22日から13日にかけて、京都大学にて開催された「Japan Steel Bridge Competition」に、橋梁研から修士1・学4の計5名と、構造研・河川研の修士1計2名が出場しました。本年度は「緊急架設橋」をコンセプトに、主に2種類の部材を組み合わせたモジュラーブリッジを製作しました。シンプルな構成で急速施工が可能で、現場条件に応じた柔軟な組み合わせができる点が特徴でした。入賞には届きませんでした。

製作の様子  
練習の様子  
集合写真

余興の様子  
ピッチャー

サイクリング  
因島大橋  
川田工業四国工場  
内海大橋

試験体設置状況  
富士山

試験体設置状況  
製作の様子  
練習の様子  
集合写真  
チーム S-N曲線  
チーム H.I.M

(記:平賀)